定住外国人のリテラシーの実態把握と環境改善に関する研究

A Study on the Japanese Literacy of Foreign Residents in Japan
and Their Integration into the Local Society

新矢 麻紀子（SHIN'YA Makiko）

日本では、1970 年代以降、ニューカマー人口が増加している。留学生が大学や日本語学校で日本語教育を受ける機会が得られるのに対し、現在の日本では、結婚移住者や労働者等、定住外国人と呼ばれる住民には日本語教育が公的に保障されていない。地域によっては日本語教室等が全く存在せず、日本語学習機会から途絶されている外国人が少なくない。

日本に暮らす外国人が第二言語としての日本語を習得する場合、音声言語は日常会話程度は自然習得が可能であるが、書字言語は自然習得がほぼ不可能であると報告されている。そのため、上記のようにフォーマルな学習機会を得られない外国人は、ほとんど読み書きができない非識字といえる状態のまま、長期にわたって日本で生活を送っている。

報告者は、共同研究者らと共に、5 年前から上記のような日本語教室が存在しない地域において漢字教室を開催し学習支援を行っており、2013 年度から本格的に外国人のリテラシーの実態を把握する研究を開始した。2013 年度は 3 回（各回 3-4 日間）、2 地域を訪問し、漢字教室を開催した。参加学習者のリテラシーの実態把握のために、学習者が初回来室した際に、文字能力調査を実施し、学習態度や学習方法に関して参与観察を行った。また、彼女らが日常生活や仕事の場においてどのような日本語のリテラシーに接触しているのか、どのような困難があるのか、それにどう対処しているのかを把握するために聞き取り調査を実施した。さらに、彼女らを受け入れている日本社会の実態を知るために、県の国際交流協会職員、外国人在住地域の役場職員、同日本人住民に聞き取り調査を実施した。これらの調査は 2014 年度も継続中である。

また、他地域における外国人のリテラシーの状況ならびに学習支援の状況との比較検討を行い、かつ外国人のリテラシーに関する全体像を把握する資料を収集するために、岡山県、福岡県、富山県、韓国釜山市において、教室や関係施設の見学、関係者からの聞き取り、質問紙調査等を実施した。

これらの研究成果は、論文「定住外国人のリテラシー獲得に向けた学習支援とプロフィシェンシー」（『日本語プロフィシェンシー研究』第 2 号、凡人社、2014）、「定住外国人にとっての識字学級」（『2011 年度・全国識字学級実態調査（聞き取り調査）報告書―全国調査から浮かぶ現状とさまざまな「しきじ」の課題―』全国識字学級実態調査実施委員会、2014）、口頭・ポスター発表「国際結婚移住女性への文字学習支援―多様な学習レディネスとニーズに着目して―」（共同発表、日本語教育方法研究会(JLEM)第 43 回研究会、2014）、口頭発表「国際結婚移住女性のリテラシーと社会参加―生活史と学習環境に着目して」（共同発表、日本社会教育学会第 61 回研究大会、2014）において報告した。